

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成20年8月21日(2008.8.21)

【公開番号】特開2006-124692(P2006-124692A)

【公開日】平成18年5月18日(2006.5.18)

【年通号数】公開・登録公報2006-019

【出願番号】特願2005-286048(P2005-286048)

【国際特許分類】

C 08 G 18/65 (2006.01)

C 08 G 18/10 (2006.01)

C 09 J 175/12 (2006.01)

C 09 J 175/08 (2006.01)

【F I】

C 08 G 18/65 A

C 08 G 18/10

C 09 J 175/12

C 09 J 175/08

【手続補正書】

【提出日】平成20年7月9日(2008.7.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ポリオールとポリイソシアネート化合物とをイソシアネート基過剰の割合で反応させてイソシアネート基末端プレポリマーを得た後、該イソシアネート基末端プレポリマーに鎖延長剤を反応させ、さらに末端停止剤を反応させるウレタン樹脂の製造方法であって、

鎖延長剤が、イソシアネート基と反応可能な官能基を3つ以上有し、それら官能基のうちの1つが、1級アミノ基または2級アミノ基であり、1つが1級水酸基であり、残りの官能基が2級水酸基または3級水酸基であることを特徴とするウレタン樹脂の製造方法。

【請求項2】

ポリオールが、平均水酸基数が2以上であり水酸基価が5.6~600gKOH/gのポリオキシアルキレンポリオールである、請求項1に記載のウレタン樹脂の製造方法。

【請求項3】

鎖延長剤が、N-(2-ヒドロキシプロピル)エタノールアミン、1-メチルアミノ-2,3-プロパンジオール、および1-アミノ-2,3-プロパンジオールから選ばれる少なくとも1種である請求項1または2に記載のウレタン樹脂の製造方法。

【請求項4】

請求項1~3のいずれかに記載の製造方法で得られたウレタン樹脂からなる粘着剤。

【請求項5】

請求項1~3のいずれかに記載の製造方法で得られたウレタン樹脂とポリイソシアネート化合物とを反応させて得られるウレタン樹脂からなる粘着剤。

【請求項6】

粘着力が15N/25mmを超える、請求項4または5に記載の粘着剤。

【請求項7】

請求項1~3のいずれかに記載の製造方法で得られたウレタン樹脂を含む粘着剤溶液を

塗工し、乾燥する粘着シートの製造方法。**【請求項 8】**

請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の製造方法で得られたウレタン樹脂とポリイソシアネート化合物とを反応させて得られるウレタン樹脂を含む粘着剤溶液を塗工し、乾燥する粘着シートの製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

本発明のウレタン樹脂の製造方法は、ポリオールとポリイソシアネート化合物とをイソシアネート基過剰の割合で反応させてイソシアネート基末端プレポリマーを得た後、該イソシアネート基末端プレポリマーに鎖延長剤を反応させ、さらに末端停止剤を反応させるウレタン樹脂の製造方法であって、鎖延長剤が、イソシアネート基と反応可能な官能基を3つ以上有し、それら官能基のうちの1つが、1級アミノ基または2級アミノ基であり、1つが1級水酸基であり、残りの官能基が2級水酸基または3級水酸基であることを特徴とする。

本発明のウレタン樹脂の製造方法においては、ポリオールが、平均水酸基数が2以上であり水酸基価が5.6~600mg KOH/gのポリオキシアルキレンポリオールであることが好ましい。

また、本発明のウレタン樹脂の製造方法においては、鎖延長剤が、N-(2-ヒドロキシプロピル)エタノールアミン、1-メチルアミノ-2,3-プロパンジオール、1-アミノ-2,3-プロパンジオールから選ばれる少なくとも1種であることが好ましい。

本発明は、上述した製造方法で得られたウレタン樹脂からなる粘着剤である。

本発明の粘着剤においては、上述した製造方法で得られたウレタン樹脂とポリイソシアネート化合物とを反応させて得られるウレタン樹脂からなるものが好ましい。

本発明の粘着剤は、粘着力が15N/25mmを超えるものである。

また本発明は、上述した製造方法で得られたウレタン樹脂を含む粘着剤溶液を塗工し、乾燥する粘着シートの製造方法である。本発明の製造方法においては、上述した製造方法で得られたウレタン樹脂とポリイソシアネート化合物とを反応させて得られるウレタン樹脂を含む粘着剤溶液を塗工し、乾燥することが好ましい。